

「大雨の後のこわさ」

埼玉県 朝霞市立朝霞第十小学校 3年 弘山 真葉

私の家のすぐそばには、黒目川という川が流れています。すぐそばとはいえ、周囲よりも高い所に私の家があるので、台風の時や大雨の時にお父さんやお母さんのスマートフォンがすごい音で川の水位が上がっている事を知らせた時も、家の中でじっとしていれば、ぜったいに大丈夫です。川に近づきさえしなければ、きけんな事は何もないと思っていました。

でも、きけんなのは川の近くだけではありませんでした。夏休みにニュースを見てみると、聞いた事のある地名が流れてきました。長さき県諫早市の轟の滝で土砂くずれが起こったというのです。私は長さき県大村市で生まれ、しばらく暮らしていました。「森林浴」だといってそこに遊びに行った事があります。緑がきれいで、滝の音が涼しくて、おいしくかき氷を食べたのを覚えています。

テレビの中の長さき県諫早市は、よく晴れていました。土砂くずれが起こった時もよく晴れていたそうです。雨がふり続き、嵩が増した川だけがあぶないと思っていた私はびっくりしました。

山は、土や木がたくさん雨水をためられるので、あふれ出すまでに時間がかかる事をはじめで知りました。山がたくわえておける水の量には限界があります。それをこえると、山がくずれたり、川に一気に水が流れてくる事になりあふれてしまうのです。そして土砂くずれが起きるのです。

豪雨の時には信じられないぐらいたくさんの雨がふります。雨が上がったとしても、しばらくは注意深くすごさなければならぬと思いました。

ふだんは私達の生活にかかせない命の水を、少しずつ川へと流し、私達に届けてくれるというすばらしい働きをしてくれる山です。でも、豪雨の時はちがいます。小さいころに遊びに行っていた轟の滝の近くでの土砂くずれを知り、まさかと思うような場所だとしても、ゆだんしてはいけないと分かりました。

いつもは安全で、なれている場所でも、安心できるまでは、大雨の後のこわさをわすれないようにしましょう！！